

今月の安全運転管理

安全運転で 持って帰ろう 楽しい思い出

①レジャードライブの事故防止を呼び掛けよう

- 疲労運転防止のポイントを周知しよう
- 飲酒運転厳禁を徹底させよう

②全席シートベルト着用をすすめよう

- 後部座席のシートベルト着用を徹底させよう



疲労運転防止の ポイントを 周知しよう

間もなく、夏季休暇がやってきます。レジャードライブでは気が緩みがちになるため、注意点をしっかり指導して休暇中の安全運転意識を高めておきましょう。

レジャードライブでは、長時間・長時間の運転となることが少なくありません。

くわえて、休暇中は自身の体調よりも予定を優先させてしまい、睡眠不足や体調不良を感じていても無理に運転しがちです。

疲れがたまった状態で運転を続けていると、集中力や注意力が低下して、歩行者の飛出しや、前車の急ブレーキ等への対応が遅れてしまいます。

また、高速道路のような直線が続く単調な道路では、知らず知らずのうちに意識レベルが低下して居眠りをしやすくな

ります。

そこで、次のような疲労運転防止のポイントを周知しておきましょう。

- 運転前日は十分な睡眠をとり、体調不良を感じる場合は運転を控える

- 二時間に一度の休憩をとる

- 疲れや眠気を感じた場合は、安全な場所に停止して休憩（仮眠）をとる

飲酒運転厳禁を 徹底させよう

夏季休暇中に気をつけたいことの一つが、旅行先での飲酒運転です。気が緩んで「一杯だけなら」運転前に飲酒したり、前日に深酒をして、翌朝アルコールが抜けていないのに運転したりして、飲酒運転となるのはよくあるパターンです。

悪質かつ危険な行為である飲酒運転には、厳罰が科されます。「一杯だけだから」眠ればアルコールは抜ける」と甘く考えていると、一生を棒に振るこ

とになります。

従業員に対しては、飲酒運転がもたらす不幸の連鎖や、アルコールはすぐには抜けないといった知識を指導して、レジャードライブでの飲酒運転を防ぎましょう。

後部座席の シートベルト着用徹底を 指導しよう

警察庁とJAFの調査によると、県内の後部座席のシートベルト着用率（一般道路）は三十五パーセントでした（二〇二五年）。

シートベルト未着用では、事故の際に自身が車外に投げ出されたり、前席に強打したりするだけではなく、他の乗員を押しつぶすなど、被害を拡大させるおそれがあります。

レジャードライブの際には、後部座席の乗員にもシートベルトの着用を促すよう指導しておきましょう。